

2021. 7. 31

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行
 TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

※8月は定員に達しましたので締め切りました。

《7月のおはなし会で使った本》

『いもうとがうまれたよ!』中井はるの/作 教育画劇 2011

『パンダオリンピックたいそう』いりやまさとし/作 講談社 2020

『たなばたバス』（大型絵本）藤本ともひこ/作・絵 鈴木出版 2015

『れいぞうこ』（大型絵本）新井洋行/作・絵 偕成社 2015

★「夏休み小学生のためのおはなし会」

○日時：令和3年8月5日（木）第1部 10:00～10:30 第2部 11:00～11:30

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：小学生（保護者同伴の場合は、保護者は1名のみ）

○実演：おはなし小箱のみなさん ○内容：ストーリーテリングの鑑賞

★第2回子どもと本をつなぐスキルアップ講座

○日時：令和3年9月4日（土）14:00～15:45

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室※Microsoft TeamsによるLive配信あり

○講師：湯澤 美紀氏（ノートルダム清心女子大学教授）

○内容：【講義】「子どもの育ちを支える絵本の選び方」～おはなし会などでとりあげる絵本の選書～

○対象：県内の子ども読書ボランティア、公共図書館職員、司書教諭、学校司書、保育士、幼稚園教諭、保育教諭等

○定員：会場20名（要申込み、人数超過の場合は抽選）オンライン参加30名（要申込み、先着順、定員になり次第締切）

○申込方法：参加申込書によりFAX、電子メール、又は電話で氏名・所属・電話番号またはメールアドレスを連絡

○申込締切：8月25日（水）17時（オンライン参加は、定員になり次第、締め切り）

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

＜絵本－乳幼児から＞

『びりびり』 中新井純子/作 童心社 2021.6 ¥1000

三角の赤い紙をびりびり破ってみたら、「ぷっ」タコさん！黒い半円の紙をびりびりびりびりと破ってみたら、「ぱっ」ヤマアラシさん！ピンクの楕円の紙をびりびり破ってみたら、「びょん」ウサギさん！細長い茶色の紙をびりりりり破ってみたら、「ばか」ワニさん！オレンジのふたつの丸をびりびり破ってみたら…さあ何になる？音と形と色それぞれを楽しめる赤ちゃん絵本。

＜絵本－3, 4歳から＞

『だんだんだんだん』 たけがみたえ/作・絵 ひさかたチャイルド 2021.5 ¥1200

よっちゃんはおじいちゃんと夜のお散歩。おじいちゃんが小さなびんをくれた。「なにをいれるの？」「それはあとでのおたのみ。」歩いていくと、あたりはだんだん草ぼうぼう。空はだんだん夜の色。到着したのは真っ暗なたんぽぽ。かえるもどんどん鳴きだして、びたっと静かになり…「はたるだ！」初夏の夕暮れから夜の景色が木版画で味わい深く描かれた、蛍の季節にぴったりの絵本。

『クリフォード おおきなおおきなあかいぬ』 ノーマン・ブリッドウェル/作 椎名かおる/訳 あすなる書房 2021.4 ¥1200

私はエミリー・エリザベス。とても大きくて赤い犬を飼っているの。名前はクリフォード。得意なのは、投げた棒を持って帰ってくる。かくれんぼもおてのもの。ちょっと困ったところもあるけれど、私にはクリフォードがいちばん！エミリーとクリフォードの愉快な日常を描いた、アメリカのロングセラー絵本。続編の『クリフォード ちいさなちいさなあかいぬ』も同時翻訳出版。

＜絵本－5, 6歳から＞

『お月さんのシャーベット』 ペクヒナ/作 長谷川義史/訳 ブロンズ新社 2021.6 ¥1400

寝苦しい夏の晩のこと。暑くて暑くてみんな窓を閉めて、エアコンびゅんびゅん扇風機ぶんぶん。すると、ぼた…ぼた…。あまりの暑さにお月さんが溶け出した。しっかりもののオオカミのお婆あちゃんがお月さんのしずくをたらひに受けとめ、冷凍庫に入れてシャーベットを作り…。2020年にアストリッド・リンドグレーン記念文学賞を受賞したペク・ヒナの新作ファンタジー絵本。

＜絵本－小学校低学年から＞

『ぼくがっこう』 谷川俊太郎/文 はたこうしろう/絵 アリス館 2021.5 ¥1400

家にいると僕はこども。学校に行くとは僕は生徒で、僕は大勢の中の一人になる。学校の上にも同じ空が広がる。広い庭があつてたくさんのお花が咲く。図書室には本がいっぱいあって好きな本を読んでいい。仲がいい友だちがいて嫌いな友だちもいる。嫌いな友だちが好きになることもある…。誰もが過ごし経験する学校でのかけがえのない時間。大人へと近づいていく日々を大切に綴った

絵本。

<絵本—小学校中学年から>

『かんじるえ』 大谷陽一郎/さく 福音館書店 2021.5 ¥1200

浜辺で貝殻をひろう男の子、砂浜を走る犬、夜空にあがる打ち上げ花火、池の中をたゆたう鯉や石の上の亀、咲き誇る睡蓮の花…。一見、字のない絵本かと思いきや、なんと字ばかりの絵本。目を凝らしてみるとその絵が小さな漢字の集合で描かれているのがわかる。巻末には「絵をつくっている漢字」が掲載されており、どんな漢字で構成されているかを確認することができる。新感覚の絵本。

<読み物—小学校低学年から>

『あしたもオカピ』 斉藤倫/作 fancmi/絵 偕成社 2021.6 ¥1200

飼育員さんに、よつば月の夜には動物たちの願いがなんでも叶うことを教わった動物園のオカピ。「動物園中の柵の鍵を全部開けてください」と願い、柵から出て、色々な願いごとを持つ動物に出会う。自分の長い鼻が嫌いなゾウ、本が読みたいメガネザル、海が見たいコアラ…。だんだん自分のことを見直し、大切に思えるようになるオカピ。不思議な月明かりに照らされた夜の動物園でのお話。

<読み物—小学校中学年から>

『トムと3時の小人』 たかどのほうこ/作 平澤朋子/絵 ポプラ社 2021.6 ¥1380

遊びに行ったら田舎のフローラおばさんの家でおやつを食べていると、いつも知らないうちにおやつが少し減っている気がするトム。勇気を出しておばさんにたずねてみると、それは3時に現れる小人の仕業だと言う。確かめたいトムは、図鑑を見るふりをして様子を伺っていると…。古道具屋で見かけた赤い表紙の本がめぐり合わせてくれたファンタジー。

<読み物—小学校高学年から>

『ろくぶんの、ナナ』 林けんじろう/作 高橋由季/画 岩崎書店 2021.4 ¥1300

バス遠足で寄った遊園地の不思議なお土産物屋の主人にサイコロをもらった小5のナナ。本当は引っ込み思案なのに、そのサイコロを振ると、出た目の性格が移ってしまうことに。1は理屈っぽく、2はあつけらっかん、3は三日坊主で…。個性豊かなサイコロの目たちとのやりとりから、ナナは少しずつ変わり始める。著者のデビュー作で、第17回ジュニア冒険小説大賞受賞作品。

<読み物—中学生から>

『海を見た日』 M・G・ヘネシー/著 杉田七重/訳 すずき出版 2021.5 ¥1600

ナヴェイアは8人目の里親ミセスKの家で、エルサルバドル人のヴィクトとスペイン語しか話せないマエラの2人の里子と共同生活を送る中学2年生。新たに預けられた自閉症のクエンティンを、入院しているママに会わせるために子どもだけでトランスに行くことに。バスや地下鉄を乗り継いで病院に向かうのだが…。同じ家に住んでいただけの5人が、本当の「家族」になっていく物語。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『くじらの子』 石川梵/写真と文 宮本麗/写真 少年写真新聞社 2021.5 ¥1800

エーメン少年の住むインドネシアのラマレラ村の男たちは、モリ1本でくじらをとる伝統的な捕鯨方法で、年間10頭のマッコウクジラを捕獲。その肉は、村のみんなにいきわたるように、公平に分けられる。くじらとりを夢見る少年エーメンの姿を写真で紹介した作品。作者が監督を務める2021年9月全国公開予定のドキュメンタリー映画「くじらびと」には、エーメンも出演。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『みんなが知りたい!気象のしくみ 身近な天気から世界の異常気象まで』 菅井貴子/著 メイツユニバーサルコンテンツ 2021.5 ¥1630

雨が降る仕組みが知りたい、気象観測ってどうやってやるの?どうして世界中で異常気象が起こっているの?気圧配置って天気はどう影響するの?雲・雨・風から気象災害まで、気象のしくみを102の項目に分け、写真や図でやさしく解説する。「お天気こぼれ話」では、自由研究のヒントになる豆知識も紹介。楽しみながら学ぶ「まなぶつく」シリーズ。

<ノンフィクション—中学生から>

『13歳からのイスラーム』 長沢栄治/監修 かもがわ出版 2021.5 ¥1600

世界の人口の20~25%を占めるといわれるイスラーム教の信者ムスリム。信者の多くが中東地域に集中していて我々の身近ではないこと、また一部の過激な信者のテロ行為のために、偏った見方がされがちである。本書では、中東の専門家4人の学者が、これから世界に出ていく若者たちに向けて、ムスリムの教えやくらし、文化、現状について、わかりやすく解説する。

『10代からのSDGs いま、わたしたちができること』 原佐知子/著 井筒節、堤敦朗/監修 大月書店 2021.4 ¥1600

国連でSDGsの策定に携わった2名が監修。国内で活動する様々な団体をSDGsの観点から取材し、これからは生きる若者たちに、SDGs実現のための様々な具体例を紹介している。著者が選ぶSDGsの取組がもっとわかる映画と本のリスト、「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」前文、SDGsの17のゴールと169のターゲットを掲載。

<研究書>

『クヌギ林の妖怪たち 童話作家・富安陽子の世界』 斉藤洋/著 講談社 2021.6 ¥1600

富安陽子の童話『クヌギ林のザワザワ荘』の意味や価値を探った作品論。著者は『ルドルフとイッパイアッテナ』や『白狐魔記』、『おぼけずかん』シリーズの作者でもある児童文学作家・斉藤洋。妖怪と人間、日常と異世界といった著者ならではの視点と軽妙な文章で富安作品を掘り下げつつ、時折、自作も同じ視点で照射する。巻末の富安陽子・斉藤洋の対談もユーモアたっぷりでおすすめ。

『ライトノベル・クロニクル2010-2021』 飯田一史/著 Pヴァイン 2021.3 ¥1800

中高生に人気の「ライトノベル」というジャンルを時事風俗・流行商品として概観した一冊。ここ10年の変遷を代表的な約50作品の論評によって追う。また、膨大な発行点数ゆえに分かりにくいこのジャンルの特徴と変化を、収録されたコラムにより解説する。「ラノベの中学生離れ—中学生市場はなぜ重要なのか」というコラムあり。年ごとに、創刊レーベル、関連トピック等のまとめあり。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。取書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。